

庄内協同ファームだより

No.160 2016年5月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338

tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140

<http://www.shonaifarm.com>



酒田港祭り 大獅子

今年は暖冬で春作業も順調に進みそうだ。毎年、花粉症に苦しみられ、年々体力の衰えを感じながらの農作業のスタートである。

地域を見渡しても、後継者の姿はなく、日本の農業従事者の平均年齢が六十五歳であるとのこと。納得できる。農作業の合い間に聞くラジオでは、国会において、TPP承認案と関連法案の本格審議が衆院TPP特別委員会が始まり、その中継を聞きながらの作業となった。

民進党が交渉の詳細な情報開示を要求したのに対し、安倍晋三首相は「交渉は妥結した結果がすべてだ」「交渉過程は公表しない」と答弁し、農業分野の合意内容については「国益にかなう最善の結果」と答弁している。石原TPP担当相も交渉段階の情報を説明するに

は制約があると釈明した。とんでもない話だ。国民が納得できる説明がほしいものだ。

日本では、少子高齢化が進み、将来的にも、人口が増える見込みがない。毎年米の消費量が八万トンずつ減少しているのもうなずける。全国の農家が田んぼを半分近くも転作しているのにこの現状である。TPPで米国産米を最大七万トンの輸入枠を新設するようだ。米価下落を招く可能性は大きいだろう。政府は対策として、輸入相当量の国産米を備蓄米として買い入れるとしているが、隔離する効果はあるのだろうか疑問である。

またTPPによって食の安全がさらに脅かされるようになっている。世界では遺伝子組み換え作物の栽培面積が年々増えている。

日本の豊かな食を支えるため、多くの遺伝子組み換えで作られた農産物が輸入されている。その中でも大豆、とうもろこし、ナタネは九割以上輸入である。それらは食料油、醤油、豆腐、コーンスターチに加工され大半の食品が遺伝子組み換え表示の対象外となり、知らず知らず消費されている。日本人が世界で一番高い割合で食べているという調査結果もある。厳密な表示の強化と、輸入の規制、日本のGMOフリーゾーンの拡大運動が消費者利益、国民の健康につながると思う。

今、日本の百姓が根絶やしにされようとしている。政府の攻めの農業、成長戦略にのれる農家は多くないだろう。地産地消、産直活動、環境保全を生きのびる道と考え、一年でも長く土を耕したいものだ。

小野寺 彰

生産者集会

3月15日に庄内協同ファームの生産者集会が行われました。この生産者集会は昨年一年の農業を振り返り、自分達で掲げた環境と生産の方針についてどのように取り組んだかを総括する集会です。

午前中はファームの事業の報告、有機JAS委員会、生産履歴監査委員会、安心農産物生産委員会のそれぞれの事業報告、米部会、加工部会の環境・生産プログラムの総括の報告が行われました。

午後からはお二方から講演していただきました。一人目は「生活協同組合連合会コープ自然派事業連合」理事



長の小泉さんで、『コープ自然派の歴史・現状と今後の方向』という演題で生協の事業やそれを取り巻く経済の流れを面白おかしく講演していただきました。二人目は株式会社グッド



テーブルズ代表取締役社長山本謙治さんで、『やまけん』の愛称で呼ばれ、『日本の「食」は安すぎる』等の食品に関わる著書やメディアでも活躍している方からの講演でした。『いま消費者から求められている食・農産物は何か』という演題で、我々農家がどのような農産物を消費者に提供していかなければならないのか、食の取り巻く環境をユーモア溢れるエピソードを交えながら講演していただきました。また、昨年講演でお越しいただいた生活協同組合あいコープふくしまの佐藤理事長にも再度参加いただき、今の福島現状を報告していただきました。

講演終了後は懇親会を開き、色々な話に花が咲き、親睦を深めることができました。

毎年行われているこの生産者集会も16回目になりました。今後もこれを継続して開催し、自分達で総括したことを情報発信できればいいと思います。

庄内協同ファーム 生産者集会に参加して

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合
商品部商品企画課 マネージャー 藤井 優



3月15日、今年で第16回となる生産者集会に参加させて頂きました。代表の小野寺さんのご挨拶にはじまり、前半では2015年度活動報告、昨年の作付実績や全体の計画、認証の取組み、各ご担当者のご報告を聞き、ファームの現状と問題等を詳しく理解することができました。後半は当会の理事長より事業報告をさせて頂きました。その後、理事長に勝るとも劣らない元気で張りのある声で山本謙治さんによるご講演。「いま消費者から求められる食・農産物は何か」というテーマでお話され、現代の食生活や食の問題を的確に捉えた内容は、我々が生協事業をすすめる上でも大変参考になる点が多く、感心深く拝聴させて頂きました。「何が売れるかわからない時代。時流を読み、産地が主体性をもって商品づくりを行っ

ていく事が必要」とおっしゃられていたのが印象的です。

今回参加させて頂き若い世代の方たちがしっかり育ち組織を支えていることを非常に心強く感じました。私も生協でもいよいよ世代交代の時期を迎えています。産直取組みのなかで長年築き上げた「食の安心安全」「生産者と消費者のつながり」を我々の世代でしっかり受け継いで行かなければならないと改めて感じました。

翌日、澄み切った青空の下、真っ白な雪に覆われた月山、鳥海山の美しい景色が感動的でした。ありがとうございました。



農薬を使わないで
育てた大麦を
特製の焙煎機で
ゆっくりゆっくり
大事に煎りあげた
麦茶です。



庄内協同ファームの麦茶

「むぎちゃん」

今回は、庄内協同ファームの麦茶を紹介します。

原料の大麦について説明させていただきます。
大麦の栽培には『なつみずたんぼ』という農
法が用いられています。

『なつみずたんぼ』との出会いは、6年前
のコウノトリの里、豊岡市での生物多様性の
勉強会でした。転作田の連作障害による生育
不良に困っていましたので、早速取り組みま
した。やってみたら：：驚きでした。初
年度、菜種・麦の収穫後7月から代掻きをし
て、水を張ったところ、1ヵ月もしないうち

に、次から次と今までに見たことがない鳥が
『なつみずたんぼ』に舞い降りてきたのです。
孫を撮るために購入したビデオカメラを持ち
出して撮影しました。それから3年後の9月
にコウノトリが『なつみずたんぼ』に遊びに
来てくれました。

昨年までに21種類のシギ・チドリが飛来し
ました。今までに知らなかった別世界を体感
しています。

農業は農薬・化学肥料を過大に頼り、環境
に何らかの悪影響を与えてきました。経済合
理性を追求し、その結果、生物多様性の宝庫で
ある湿地帯・干潟・水田を減らしてきました。
『なつみずたんぼ』をすることにより農産
物の安定生産（連作障害回避）と夏の渡り鳥
の休息地になります。生き物の力を借りて消
費者に理解さ

れる農業技術
として普及さ
せたいもので
す。なつみず
たんぼから生
産された『む
ぎちゃん』を
よろしくお願
いします。

大麦生産者：・

菅原孝明



『なつみずたんぼ』に訪れたクサシギ

NORI'S キッチン



どこか昔なつかしい味。
安心材料で形も色々作れる、
親子で楽しめるレシピ！
簡単に作れちゃうから是非子供と一緒に (^)/

◎米粉のきな粉ボーロ（30個分）

（材料）

米粉（当社製品の「うるちっ粉」）.....40g
きな粉（当社製品の「まめっこくん」）... 40g
卵 1 個
砂糖 30g

（作り方）

1. 卵を溶き、砂糖を泡だて器で混ぜ溶かす。
2. うるちっ粉、まめっこくんを合わせ、ゴムベラで混ぜ合わせる。
3. 一口サイズ（1cm弱）に丸め、クッキングシートに並べ、180℃オーブンで10分加熱し、完成！

Nori's Point

お好みで、きな粉の量や、
砂糖を増やしてもGood!

固めにくい時は、粉の量を調整！
丸めるとき、
手のひらを濡らすとGood!

加熱のし過ぎは固くなるので注意！
形をクッキー型や型抜きや
オリジナルもGood!



小野寺 紀允
農家レストランを
さりもりする若旦那

ペンリレー

徒然草

志藤知子

「今ある幸せを抱きしめて」

去年の春 長男が結婚し、今春には次男が相次ぎ結婚した。すばらしく感動的な結婚式だった。果てしなく広がる青く澄んだ海を背景に結婚の誓いを交わす二人の姿に、衰えていると思っていた五感は呼び戻され、全身に幸せが満ち満ちてきて感極まった。

過ぎ行く時間の中に置き去りにするには余りに惜しく夢のような時間だった。あくまでも穏やかで慈愛に満ちた光景に巡り会えた幸せと今生きている幸せをかみしめた。

「生きている幸せ」と敢えて言うには少し訳がある。



忘れもしない二年前のある日、私は突然の病に倒れた。加齢による不調は多少は感じていたものの、特に投薬を受ける程でもなく、健康を疑うこともなく日々を過ごしていた。むしろ低血圧気味だった私は、四股の自由が利かなくなつて尚、脳梗塞など自分とは無縁の病気だと思い込み、異変の正体に気付かなかつた。

幸い夫の適確な判断で救急医療を受け、一命を取りとめ、こうして文章を書く能力も何とか維持できている。私が私自身を失わずにここに存在していることはとても有難く感謝すべき事である。

その一方で、突然自分の中で同居を始めた不自由な自分を受け入れ、折り合いをつけて前に進む事はとても苦しかった。頭の中では整理ができて、理性だけでは制御しきれない何かを抱えているものなのかもしれない。正体がわからないながらも心の奥底でさざ波を立てる何かと人知れず戦い続けていたような気もする。

担い手としては、相当ギアダウンしてしまつたけれど、私の変化は、夫をも巻き込み、旅行を楽しんだり、それまでできなかった農的暮らしを楽しむ時間を持つようになった。有機米と有機枝豆で味噌作り。麴から手作りする手前味噌はとても美味しく作業も又楽しい。

二人の共同作業がこんなことにまで及ぶ事を思い描けたのだろうか。私の病気は、走り続ける事への警告だったのかもしれない。

寄せ来る加齢の波を感じながら、今こうして穏やかな夫婦の生活が送られたことに改めて感謝し、与えられた幸せを抱きこめる春の始まりである。

「働く農機具」

ドライブ・ハロー

ドライブ・ハローはトラクターに装着した代掻き作業をする機械です。「代掻き」とは、田んぼを耕した後、水を入れ、切藁、肥料等を土の中に練り込み田面を均平にする作業です。作業は荒掻きと仕上げの2回に分けて行います。ドライブ・ハローも大型化し3mを超える幅となり、道路移動に支障が出るため、リモコン操作等で翼の様に折り畳むものが主流になってきています。



あとがき



今年オリンピックイヤーですね。オリンピックといえば、4年に一度のビッグイベント。

4年に一度といえば、今年も閏（うるう）年ですね。

この閏年、皆さん4年に一度は2月29日があるというだけで、正確な内容について知っている方はあまりいらっしゃらないのではないのでしょうか。

簡単にいうと、太陽の公転は一周するのに約365日と6時間弱ほどかかり、4年間で約24時間程の差がでるんです。それでその調整のため、一日設けたのが閏年なんです。

でも、なんで2月29日なのって不思議に思いませんか？

これは、どうやら古代ローマ時代の暦が関係しているようです。古代ローマでは2月が年末だったんだそうです。それが今の太陽暦にも受け継がれているのだとか。

オリンピックもある閏年は世界的に経済効果が高まる年なんだそう。そういえばアメリカの大統領選もありましね。

農業の景気もその調子で上がってくれるといいんですけどね。

（丹）